

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	最後まで自分らしく暮らしていけるようこの思いを理念に掲げ、サービスに努めている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員の入社日研修の中で理念の説明を行い、会議やミーティング、勉強会前には全員で唱和している。 各ホームに掲示し、出勤時や当直時に確認をしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居案内や入居契約時に説明を行うと共に、2ヶ月に1回開催している運営推進会議でも、ご家族や地域の方の理解を深めていただけるよう話をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム独自の通信【奈良屋かわら版】を月1回発行し、ご入居者と一緒に配布すると共に、地域行事へも積極的に参加させていただいている。 買物や散歩など日常の外出時も挨拶を行い、ふれあいを大切にする事で、ホームにも気軽に立ち寄っていただけるように努めている。	ホーム主催のイベントにも参加していただいているため、今後も継続して企画、運営をしていくほか、日常的に立ち寄っていただけるよう更に交流を深めていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の総会や地域行事に積極的に参加させていただいており、山笠祭りの炊き出しや清掃活動のほか、公民館行事では職員がケアピクスを実施するなど、地元の方との交流を深めている。	地域行事以外の地域活動(清掃活動等)へも更に積極的に参加していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・公民館行事でケアピクスを実施するなど、地元の方への介護予防運動を行ったことがある。		介護相談や介護教室等を定例化して、地域貢献に向けて取り組んでいきたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の内容、意義を説明しているが、全職員が理解しているとは言えない。		評価の内容、意義を理解できるよう再度説明を行い、外部評価後は改善に向けたミーティングや勉強会等を実施していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回運営推進会議を行い、ホームを知っていただくことの方向性を示し、ホームの状況報告を行っている。 もいただいたアドバイスを元に、全職員で改善に向けて、または継続に向けて取り組めるよう実施中である。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・公民館行事等への参加や、民生委員さんとの関わりを深めているが、市や地域包括支援センターとの関わりが不十分である。		地域包括支援センターとの連携を深めていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・入居契約時には必ず成年後見制度の説明を行い、参考資料等もお渡ししている。 ・外部研修や会社主催の勉強会も実施しているが、全職員が知識を習得しているとはいえない。		・内部、外部研修の機会を増やし、全職員が制度を理解できるように努める。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・日々の生活の中で、虐待や抑制に繋がっていないか、会議やミーティング、勉強会等で日頃から確認と話し合いを行い、防止に努めている。		・勉強会や外部研修の参加等を積極的に行うことで虐待について学び、日々の生活の中で見落とし、見過ごしがないようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に見学と相談時間を設け、説明を行っている。体験入居をしていただいた上で、契約書に順じた説明を再度させていただき、理解と納得を図るようにしている。</p>		<p>全職員が契約内容を把握できていないため、周知徹底に努める。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>遠慮せずに意見や不満、苦情等を言っていただけるように個人面談を行ったり 運営推進会議にも参加していただくなど、言いやすい環境作りを行っている。 いただいた意見は、ケアプランに反映するようにしている。</p>		<p>ご意見を聞き逃すことのないよう 職員のスキルアップを図るための勉強会等を実施していく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回ふれあい通信を作成し、生活状況、健康状態の報告をしている。また、面会時には口頭にて近況報告を行い、必要に応じて電話等も活用している。 金銭については立替制度を行っており 月に1回本社より報告をしている。個人の財布をお持ちの方は、ホームより支払い表をふれあい通信と一緒に郵送している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や家族面談、運営推進会議にて意見をいただき、職員間で改善策等を話し合った結果を報告している。また、ケア担当者の評価をしていただくアンケートも実施している。 苦情相談窓口として、施設の窓口、公的窓口を重要事項説明書の中に記載し、説明をしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングや毎日の申し送り時に意見や提案を聞く機会を設けており 出た意見は全体会議で管理者から運営者へ報告し、アドバイスをもらっている。 定期的に職員個人面談を実施しており 管理者が個別に話を聞く機会も設けている。また、気軽に意見を提案できるように、業務ノートを設置している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事やイベントの際には職員数を増やすなど、状況に応じて勤務を調整している。 全職員が緊急時にも対応できるよう 2ユニット合同で勤務を組んでおり 協力体制に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>オープンして1年であるため、他事業所への異動はないが、今後グループ全体で支援できることを目標にしていることを説明しており、他事業所からの実習等も積極的に受け入れている。 離職を抑える取り組みとしては、採用前に1日体験を実施してもらい、双方で確認後、採用手続きを行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・募集に際して、年齢、性別、資格等を理由に採用対象から排除することなく、採用に至る過程で1日体験を実施し、ホームの雰囲気等を見てもらっている。 ・ボランティア等の社会参加や、自己実現に向けた資格取得等の要望に応じ、勤務を調整するなど配慮している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・2ヶ月に1回開催している基礎研修にて人権研修を行っており、また、毎月のリスクマネジメント対策委員会や毎日の申し送り時に話をしている。		・勉強会等の実施で更なる取り組みを行っていきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・役職に応じた研修プログラムや全職員を対象とした研修プログラムがあり、取り組んでいる。 ・事業所毎に担当科目を持ち、月に1回勉強会を開催しているほか、外部研修へも積極的に参加している。資格取得に向けてのバックアップ体制も整っている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業所交流会への参加や、情報交換会の発足等、ネットワーク作りを力を入れており、他施設の見学や職員との交流を通じてサービスのあり方について学ぶ機会が多くある。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・野球、劇、絵画等のチケット配布や、年に1回の親睦会の開催等、福利厚生が充実している。 ・管理者は定期的に職員面談を行っている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	・年に2回の自己評定を基に、昇給、昇格の規定を明確にし、目的や意欲を持って働けるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居相談時にご本人と面会を行ったり、体験入居を利用していただく中で、ご本人の話を聞く機会を設けており、本契約までに信頼関係が少しでも多く構築できるように努めている。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・話を聞く機会を設けており、ホームの方針等もきちんとお伝えすることで、信頼をいただけるよう努めている。</p> <p>・すぐに利用できない(待機等)場合は、定期的到手紙や電話連絡等を行い、不安の把握と解消に努めている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・入居相談と同時に介護相談と捉えており、様々なサービスの情報提供に努めている。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・ホームの様子を説明し、実際に見学に来ていただいたり、体験入居を利用していただき、ご本人、ご家族と相談しながら本入居に繋げている。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・ご本人の生活リズムを大切にしながら、理念に掲げているように喜怒哀楽を共有し、助け合いながら生活を共にするといったお互い様の関係づくりに努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会や面談時に近況報告を行い、ご家族からも意見をいただくなど情報交換を行うようにしており、共にご本人を支えていく支援者としての関係作りに努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	・面会時に近況報告し、必要に応じて職員が間に入り会話をしたり、遠方のご家族とは電話で話す機会や、手紙を出し合う機会を作っている。 ・外出、行事などの際はご家族にも声をかけ、参加していただいている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	・ご本人、ご家族からの情報を基に、馴染みの場所へ出かける外出レクや、ご友人に気楽にホームへ来ていただけるような環境作りに努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	・相性の関係をしっかりと把握し、食事の席や外出時の人選など考慮している。 ・レク/エーションを通してご入居者同士が交流を図れるよう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・現行では利用契約が終了した方はおられないが、退居された場合でも行事やイベントの際に案内を出すなどのお付き合いをしていく予定。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中でアセスメントを取っているほか、個人面談等で希望、要望の把握に努めている。 ・ミーティング等でご本人の立場に立って思いを話し合う機会を設けている。	
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時にご家族より生活歴やこれまでの経緯等の情報をいただき、入居後は直接ご本人やご家族から伺った情報を記録に残し、全職員が把握できるように努めている。	・情報収集不足によるケアの統一ができていないことがあるので、情報収集の必要性を全職員が理解できるように努める。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々の状況を記録に残すほか、申し送り時等に情報交換を行い、総合的に把握するように努めている。 ・個人別の申し送りノートを作成しており、現状だけではなく、ケアのポイント等も職員間で共有できるようにしている。	・情報収集不足によるケアの統一ができていないことがあるので、情報収集の必要性を全職員が理解できるように努める。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日々のアセスメントや個人面談を基に課題分析を行い、ケアカンファレンスや、ご本人、ご家族を交えた面談を通して介護計画を作成している。	
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・毎月評価を行い、3ヶ月、6ヶ月毎に見直しをしている。 ・入院等による状況変化は今のところないが、変化した場合は期間に関係なく早い時期での見直しを行うようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日頃の状況を介護記録に残すことはもちろん、気づきやケアのポイント等は個人申し送りノートに記入することで職員間の情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・食事、入浴時間等、状況に応じて支援を行っている。 ・併設事業所のレクリエーション参加や、浴室の利用等、ご要望に応じて対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・民生委員さんのご協力のもと、地域行事等へ積極的に参加させていただいている。		・地元消防団との避難訓練や、小中学校との交流会を積極的に行っていききたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・現行では、他サービスの利用支援は行っていないが、勉強会や他事業所との情報交換は常に行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・ケアマネジメントについての協働は行っていないが、2ヶ月に1回の運営推進会議への参加を呼びかける等、顔見知りの関係作りに努めている。		・成年後見制度についての説明会等を依頼する予定。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前からかかりつけ医がある方は、入居後も利用を継続していただき、訪問診療を希望された場合、月に2回の往診と看護師による健康管理のほか、24時間連絡体制を整えており、適切な医療を受けられるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・協力医療機関の医師に多様な面で相談しており、指導や助言をいただいている。</p>		
47	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・協力医療機関の看護師による訪問の際、日頃の状況等を報告し助言をいただいている。緊急性がなく、職員の疑問解決については、併設事業所の看護師にも相談している。</p>		
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・入院例はないが、入院した場合にご家族、病院、ホームの三者で話し合いの場を設ける等の指針を定めており、入居時に説明も行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>指針を定めており、入居契約時に説明を行っている。全職員が方針を共有し、理解できているとは言いがたい。</p>		<p>・重度化や終末期に向けて、ミーティングや勉強会等を通して方針の共有に努める。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>指針を定めており、入居契約時に説明を行い、家族面談時にも現状と今後予測される状況等を話し合い、今後の変化に備えるようにしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>介護添書を使用し、情報提供を行うほか、行事へのお誘いや手紙など、関係を継続する取り組みを行う予定。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・ご利用者それぞれの今までの生活環境の把握に努め、その方にあった、または必要に応じた言葉かけを行っている。 ・個人情報の取り扱いには注意を払って行っている。	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたいと納得しながら暮らせるように支援している	・ご本人の希望や要望を日常生活の中で聞き取り、それを表現できる場面を作れるように支援している。	
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日のご入居者の体調等をみながら、その方のペースを考え、起床時間や食事時間など対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・自らお洒落をされないご入居者へはお化粧品やマニキュアを行うことで関心をもてるような支援をしている。 ・馴染みや近所の美容室に出かけられ、散髪、シャンプー、ブローなどを定期的に利用されている。	・お化粧品をすることで、生活にメリハリができるご入居者もおられるので、お洒落を今後も継続して行っていく。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご入居者とともに料理を作り、配膳を行っている。 ・食事中は職員も同じ席につき、楽しく食事のできる雰囲気作りを行い、楽しく食事をしていただけるよう支援している。	・ただ食べるだけでなく、目でも料理を楽しむことができるよう盛り付けにも今後工夫が必要である。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・ご本人の好みを把握し、希望された時はもちろんのこと、それ以外でも状況に応じて声かけをし、提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記入し、排泄パターンの把握に努め、トイレの声かけ等を行っている。 排泄はトイレ内で行うことをお手伝いすることであり、オムツやパッドに頼らないように職員間で意識統一している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・ご入居者の希望に合わせて入浴の支援を行っているが、健康状態で職員が判断していることもある。 ・夕食後にゆっくり入浴される方もおられ、遠慮せずに入浴できる体制を作っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・お一人おひとりにあわせて、休憩を促すなどの支援を行っている。 ・日中の活動を充実させることで、夜間良眠を促し、昼夜逆転を防いでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・ご利用者の生活歴や現在の状況を把握し、得意な事、できる事は楽しみながら継続して行えるよう支援している。 ・外出や行事に参加することで、気分転換の場を設けている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・財布を持っている方には、所持金を職員が把握し、ご本人が購入したいものを購入してもらっている。 ・その他の方は、買物時にお財布の中身を職員と見て協力をして支払いをすることで、支払いの実感を得てもらっている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・ほぼ毎日、買物や散歩等の支援をしている。 ・散歩でなくても、屋上や玄関等で日光浴をされ、ゆっくりと時間を過ごす支援を行っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	・個人レク、外出レクなど計画をご入居者とできるだけ共に立て、思い出に残り楽しめるような機会作りを支援している。 ・地域行事にはその都度参加し、季節感等も感じてもらうよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	・ホームでの行事のお知らせを封書で送る際は、ご本人にも一筆書いてもらっている。 ・手紙が届いた時は、返事を書いてもらうよう支援している。		・ご本人からご家族へ電話でのやり取りが少なかったため、今後は支援を行ってきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・気楽に訪問してもらえるように、行事などの参加や話題提供をしている。 ・ご家族には家に来た気持ちを持ってもらいたいため、湯のみなどはご入居者と同じにし、お客様にならないようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・抑制廃止委員会を毎月のミーティングで行い、日々の中での取り組みや拘束についての勉強を行っている。 ・事務所に「身体拘束廃止の為の禁止事項」を掲示し、常に目にできる体制を作っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関がオートロックになっているが、ご入居者が外出希望の際は付き添い、外出できる体制作りを行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員間で連携してご入居者の所在を常に把握するように努めながら、安全に配慮している。 ・夜間は当直者が責任をもって巡視を行い、安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・包丁などの取り扱いには十分に注意し、出しっぱなしがないよう徹底している。使ったものはすぐにしまう事を徹底することで、誤飲などが起こらないように取り組んでいる。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・緊急のマニュアルを作成し、ステーションに掲示し、随時確認できるようにしている。 ・事故があった際は、報告書を作成し、職員間で対策や反省を話し合っ場を設けている。		・様々な場面を想定した勉強会を実施し、職員のレベルアップを図っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救命講習に参加し、職員間で知識習得を行っている。		定期的に救命講習ができるような勉強会の実施。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・火災を想定した訓練は行ったが、地震に対してはまだ行っていない。当ホームの避難場所等は職員に周知するよう話している。 ・校区の防災訓練にも参加し、地域の人々の協力を得られるよう日々働きかけを行っている。		地震等対しての訓練実施。 地域自治会の防災委員との連携を図っていく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・ご家族には現在の状況を話をすると同時に、現在そして今後起こりうるリスクについても話をしている。 ・家族面談等でリスクについて説明し、理解してもらえよう働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	・毎朝、バイタル測定を行い、普段と違うと感じたら再検を行うなどして、様子観察を行っている。また、異変や気になることがあれば、医療連携の医師へ連絡している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに薬の詳細を綴り、全職員が確認できるようにしている。 ・与薬時には必ず複数の職員で名前、日付、朝昼夕の確認を行い、服薬までを見届け、服薬後の袋にて再確認をしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・個々の介護記録、排泄表によって、排便の状況を把握している。 ・乳製品やプルーン、バナナ等を毎日取り入れている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後は口腔ケアを実施、声かけも行っている。 ・義歯の方は食後は外し、口の中の清潔も保っている。 ・定期的に義歯洗浄の日を設け、清潔保持に努めている。		・口腔ケアに対する重要性を研修等で学んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事は個別に毎食チェックをしており、必要に応じて水分チェック表も活用しながら、状態に合わせた量やメニューの提供をしている。 ・毎日の献立を表にして閲覧できるようにしており、バランスの良い食事提供を心がけている。		・病状に合わせた調理方法等を勉強会などで確実に身につけていきたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染に関するマニュアルがあり、管理者は入社日研修にて感染症についての説明を行い、外出後や食事前の手洗いとつがいの徹底、消毒、調理時の注意点などを実施している。 ・感染症対策委員会を設置し、ミーティング時に感染予防について話し合い、徹底している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・台所の整理整頓と調理用具の消毒を徹底している。 ・食材はこまめに買い、新鮮な食材を使用し、ストックの量にも気をつけ、早めに使い切るようにしている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・1階玄関にプランターを設置し草花を植えたり、場所が分かりやすいように看板や旗を設置しているが、併設事業所や別会社との共有部分でもあり親しみやすいとは言い難い。 ・ユニットの玄関には常に生花を飾っている。		・プランターを増やし、花が多くあることで明るく楽しい雰囲気作りをしていく。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花を玄関やリビングに飾っている。 ・テーブルやソファの位置は、ご入居者の要望に合わせて移動をし、気持ちよくつろいでいただける環境を作っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビング内には数箇所ソファを配置しており、仲の良いご入居者同士で集まったり、ゆっくりとつろいでいただいたり、居場所の工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には家族の写真や使い慣れた家具を用意していただき、安心して過ごしていただけるようにしている。 ・趣味の道具等も持ち込んでいただくことで、これまでの生活と変わらない暮らしができるように努めている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・起床時や掃除の際は換気を行い、臭いがこもらないようにしている。 ・気温、湿度に応じてエアコンの温度調節をこまめに行い、加湿器等も利用して快適に過ごしていただけるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・車椅子の方でもゆったりと移動できるリビングで、要所要所に手すりやソファ、椅子を設置することで、安全に歩ける環境を作っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室前には表札や目印となる物を使用し、ご自分の部屋だと分かるようにしている。 ・お一人お一人のわかる力を把握し、混乱や失敗を招くような表現をなくしていくように努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるよう活かしている	・1階玄関にプランターを設置し、植物を育て楽しませている。 ・天気のよい日は運動も兼ねて階段にて屋上に行き、日光浴を楽しませている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

**【時に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・地域の一人としての意識を常に持ち、ご入居者の生活がホームの中だけで完結しないよう、積極的に地域に溶け込めるよう活動している。
- ・2ユニット合同で勤務を組むことで、緊急時や日常生活上での支援でも柔軟に協力体制が取れている。馴染みの関係が広がることで、ご入居者も人との関わりが増えている。
- ・行事やイベントの際はご家族にも参加していただき、ご家族と共にご入居者の生活を支援するようにしている。